

八雲町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

八雲町では人口減少・高齢化について今後も加速し続けていくことが想定される。町内全域での高齢化や公共交通機関に頼らざるを得ない町民の増加により、公共交通の維持・確保の必要性が近年増しているなかで、熊石・八雲間は、高校、JR八雲駅、病院、公共施設、商業施設などの主要施設や、近隣町を結ぶ重要な位置づけにある。

令和3年10月から運行している熊石八雲間予約バスは、令和3年9月30日の運行を持って廃止となった江差・八雲線の新たな路線として、熊石・八雲間を結ぶ重要な生活路線であり、交通弱者の移動手段として利用されている。これからも必要不可欠な路線であることから、効率的かつ持続的な公共交通を地域に密着させるため、利用者の確保を図ることを目的とする。

生活交通確保維持改善計画の目標

1日平均乗車人数 12人／日

(※参考 熊石八雲間予約バス 令和3年10月～令和4年9月実績 11人／日)

車両取得に係る定量的な目標についても上記と同様。

令和5年度事業概要

運行系統名:熊石八雲線

運行区間:八雲町熊石～鉛川～八雲総合病院

運行回数:1,001回

運賃:熊石エリア～八雲エリア1,000円 熊石エリア～峠エリア500円 八雲エリア～峠エリア500円 熊石エリア内 200円

※障がい者割引あり

地域公共交通の現況

- ・函館バス株式会社(複数自治体路線 3路線)
- ・JR北海道 函館本線(6駅:八雲、黒岩、山崎、山越、野田生、落部)
- ・ハイヤー(4社: 有限会社八雲ハイヤー、エスジーハイヤー株式会社、有限会社旭ハイヤー、合同会社キャンタク(福祉輸送))
- ・スクールバス
- ・患者輸送バス

協議会開催状況

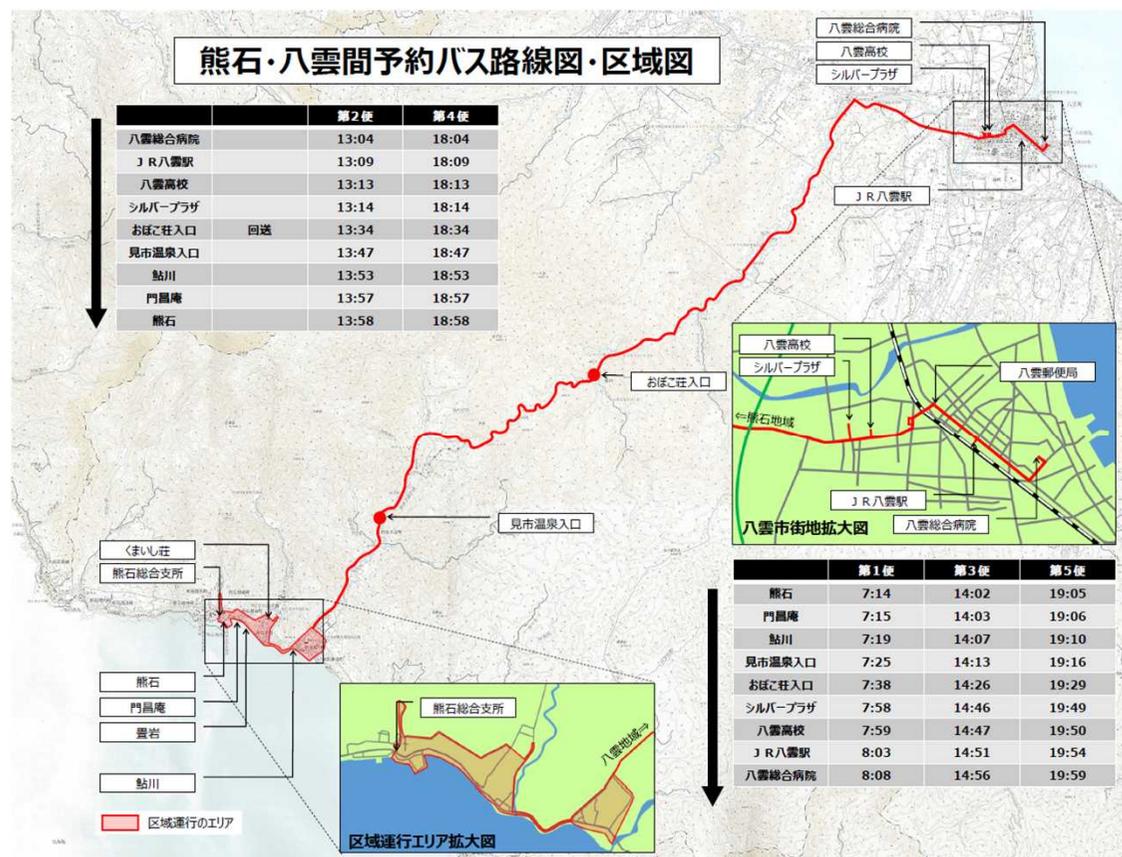
- 令和4年6月24日 第1回会議開催(書面開催)
- ・地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について
- 令和4年11月22日第2回会議開催
- ・公共交通実証実験について
- 令和5年1月17日第3回会議開催
- ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

令和5年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

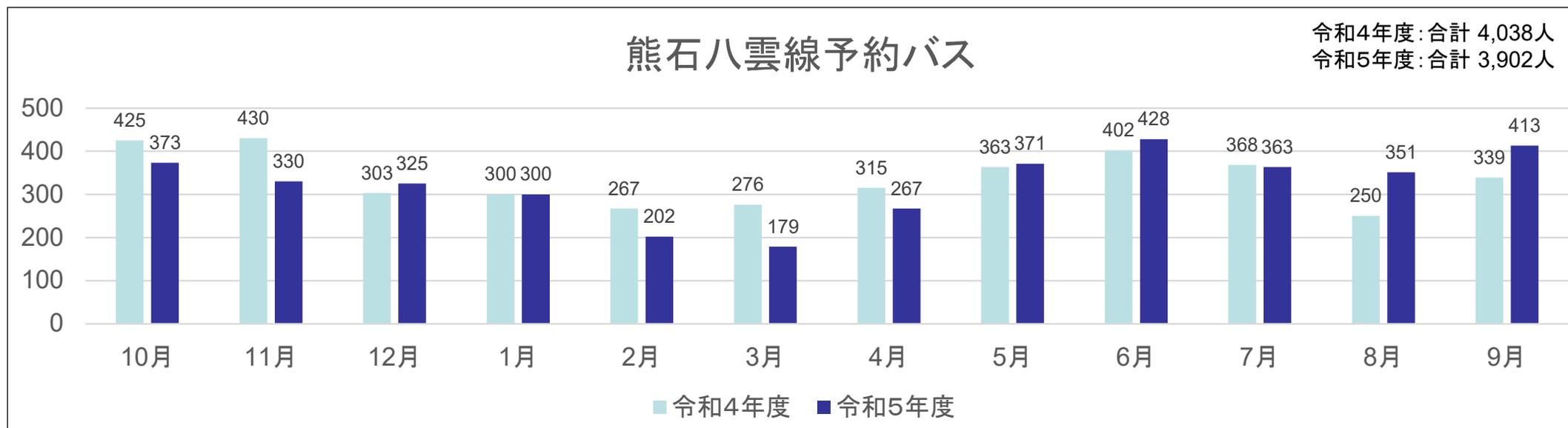
- ・町のホームページ周知や各町内施設等に時刻表の設置を行った。
- ・1便の利用に関して、接続するバス(檜山海岸線予約バス)と、1便の発車する時刻に少し時間があるため、バス内で待機できるよう早めに到着するようにしている。(特に冬などを考慮)。

2) 運行系統



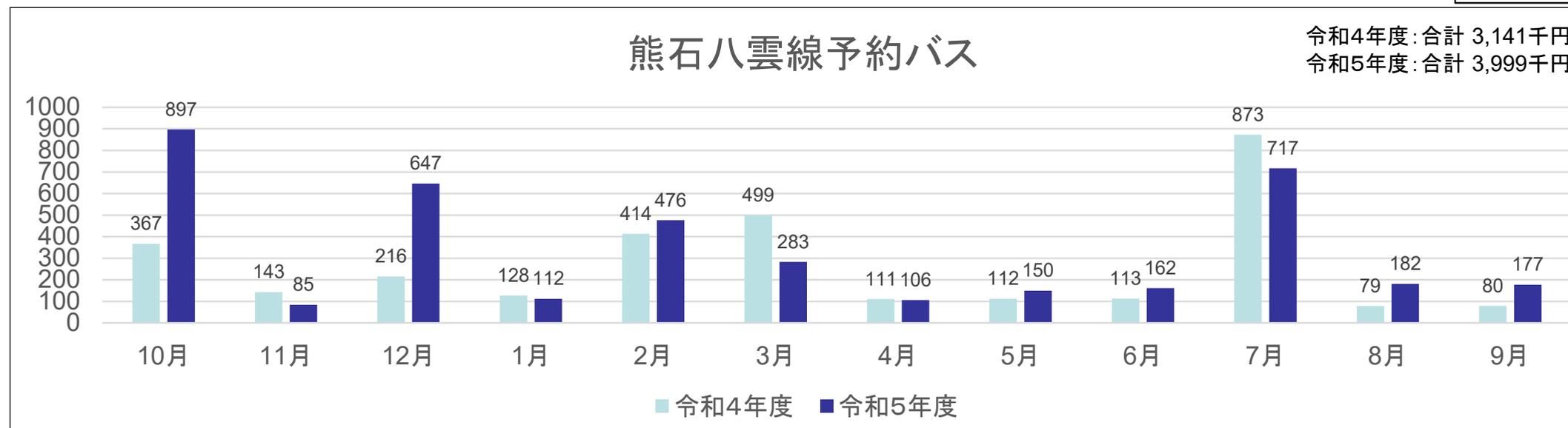
3) 利用実績

単位:人



4) 収入実績

単位:千円



5) 事業実施の適切性

計画通り、事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

- ・当路線の認知度を上げるため、継続して町ホームページやチラシの配布等行うとともに、熊石地区の高齢者の集いの場などに参加し、事業説明を行う。
- ・八雲町地域公共交通活性化協議会で、バスの無料体験会などを企画し、公共交通の利用促進を図る。
- ・運行に関して、ニーズに合った路線、ダイヤ等、必要に応じて協議を図り、地域に合った路線を構築していく。
- ・5便の利用増の取り組みについて、対象者が絞られる(単身の方など)ため、特に国保病院での周知に力を入れる。

6) 目標・効果達成状況

【事業目標】

- ・1日平均乗車人数 12人/日
(熊石八雲間予約バスR3.10~R4.9実績 11人/日をベースに目標値を設定。年間利用実績R3.10~R4.9 4,038名)
- ・1日平均乗車人数 10.9名 目標達成率 90.8%
(年間利用実績R4.10~R5.9実績 3,902名)

R3.10月から2年を迎え、少しずつ当路線の認知度は上がってきている。利用実績としては若干下がったものの、一般利用者数は伸びてきている。

※生活交通確保維持改善計画と車両に取得に係る定量的な目標値についても同様。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

(令和6年度分と併せて評価)